

# 栗の里づくり推進計画

飯島町営農センター

今日の農業は、多様で創意工夫のある農業が求められており、消費者・実需者の意向を受けた地域ぐるみの農産物生産で、高付加価値化と有利販売の求められる農業の展開が必要となっています。

一方、町農業は、担い手農業者の減少と高齢化等により、農業生産の減少が進むと共に、遊休農地、耕作放棄地が増加する傾向にあります。また、梨・りんご園等の廃園が多く見られる状況にあります。

これらへ対応するため、営農センターでは、新たな農産物づくりとして、町ぐるみで「栗の栽培」へ取り組み、売れる農産物づくり・競争力のある栗の産地化を推進します。

## 1 取り組みの背景

- ① 実需者（岐阜県恵那市（株）里の菓工房）から、栽培・取引の具体的提案がある  
・高価格安定販売、飯島町への栗加工場設置計画
- ② 省力作物で比較的生産技術の容易な作物である
- ③ 作付栽培初期投資額が少ない永年性作物である
- ④ 高齢者等多様で幅広い担い手による生産活動が可能である
- ⑤ 果樹の廃園地、遊休農地・耕作放棄地等への導入に適する

## 2 栗栽培推進の進め方

- ① 実需側から取引提案のある栽培面積・生産収量を早急に確保する
- ② 地区営農組合毎に栽培推進計画を示し、計画的な産地づくりを進める
- ③ 栗研究会（生産部会）を設立し、関係者の創意をもって進める
- ④ 果樹の廃園、遊休農地・耕作放棄地への導入、既存栗園の改良等を進める
- ⑤ 栽培技術や生産販売等に関する知識・技能の修得、先進事例の研究・研修等に努める
- ⑥ 自然共生栽培に取り組む
- ⑦ 営農センター・地区営農組合等が支援する

## 3 新規栽培に対する支援策

- ① 苗木購入に対する助成事業
- ② 整枝・剪定等の専任グループによる請負作業体制の構築

## 4 栗研究会の設置（H16. 8. 31）

研究会役員 会長 1名 副会長 2名 会計 1名

## 5 栗の植栽、生産・販売計画

項目 地区	栽培目標面積（増反計画） ha				生産・販売数量（累計） t	
	17年度	18年度	19年度	合計	20年度	22年度
飯島地区	2	1	1	4	5.0	10.0
田切地区	2	1	1	4	5.0	10.0
本郷地区	2	1	1	4	5.0	10.0
七久保地区	3	3	2	8	7.5	20.0
合計	9	6	5	20	22.5	50.0

## 6 栽培品種と作付構成

品種	作付割合	収穫期	備考
丹 沢	50%	9月上旬	・10a 当り植付け本数 40本 ・10a 当り収量 200kg～300kg
筑 波	50%	9月下旬	

## 7 栽培指針、経営指標の設定

### (1) 年次収支

単位：円

項目		内 容	H 17	18	19	20	21	22～
収 入	着 果	10a 当たり kg	幼木	幼木	未着果	100	200	250 ～ 300
	収 入	単価 700 円/kg(*注)	0	0	0	70,000	140,000	210,000
支 出	開園費	苗木、土壌改良材	60,000	—	—	—	—	—
	費 用	肥料、農薬、諸材料等	5,000	7,000	10,000	12,000	15,000	15,000
収 益	単 年		-65,000	-7,000	-10,000	58,000	125,000	195,000
	累 計		-65,000	-72,000	-82,000	-24,000	101,000	296,000

\*注 上位ランクの単価を使用

### (2) 施 肥

単位：kg

	1～3年	4～8年	成 木
11月 元肥 フルーツパワー上伊那	10	20～40	80
7月 追肥	—	—	5
10月 追肥	—	1～2	5

### (3) 防 除

時 期	品 名	希 釈
6月上旬	ベンレート(殺菌)	2,000倍
	アディオオン(殺虫)	2,000倍
8月中旬	ベンレート(殺菌)	2,000倍
	アディオオン(殺虫)	2,000倍